

報告 読むJ600 教材の最適化を目指して(2) : アンケート調査結果の報告

著者	高橋 純子, 和氣 圭子
雑誌名	筑波大学留学生センター日本語教育論集
号	30
ページ	259-280
発行年	2015-02-28
その他のタイトル	Practical Articles A Report on an Intermediate Japanese Reading Class : focusing on learner needs
URL	http://hdl.handle.net/2241/00125057

読むJ600 教材の最適化を目指して (2)

— アンケート調査結果の報告 —

高橋 純子 和氣 圭子

要 旨

対象受講生のニーズに最大限応え、学習効果のある最適な教材を用いた授業を実現するため、2012年度に引き続き、2013年秋学期と2014年度春学期にアンケート調査を行った。読み教材およびクラス活動に関する「教材・授業活動アンケート」と、読むこと全般に対する考えを問う「読み方アンケート」の回答を集計したところ、2012年度同様、文章理解には「語彙」の知識が大いに関わっているという回答が多かった。授業で読みたいものとして、2012年度は「新しい単語や表現がたくさん学べるもの」という回答が最も多かったのに対して、今回は「内容を理解するために深く考えるもの」「新しい知識、話題にできそうなもの」という回答が多く見られた。また、2012年度の結果を踏まえ、2013年度より語彙・文型の意味、用例を豊富に盛り込んだ予習シートを作成したが、これについて受講生から役に立っているとの評価が得られた。

【キーワード】 ニーズ 教材・授業活動評価 読解の困難点 語彙・文型の予習シート

A Report on an Intermediate Japanese Reading Class : focusing on learner needs

TAKAHASHI Junko, WAKI Keiko

【Abstract】 In order to fulfill the learners' needs and give them the most effective lessons, the authors conducted the surveys in the second term of 2013, and the first term of 2014, following those in 2012. The learners in 2012 expected reading materials to be full of new vocabulary and expressions, however, those in 2013 and 2014 mentioned a kind of text which needs deep insights to understand, or a text which provides them with new information so that they can talk about the topic of the text. The authors created preparation sheets full of new vocabulary and sentence pattern drills for each reading material, reflecting the learners' needs shown in the surveys in 2012. These preparation sheets were highly evaluated by the learners.

【Keywords】 learner needs, evaluation of reading materials and class activities,
difficulties in reading, preparation sheets

1. はじめに

筑波大学は、2013年度より、3学期制から2学期制へ移行し、それに伴い、留学生センターの日本語コースも2学期制に移行し、さらに短期留学生と大学院生、研究生と一緒に学んでいた補講コースは、大学院生および研究生を対象とする補講コースと短期留学生を対象とする総合日本語コースの2つに分かれた。その結果、筆者らが担当する「読むJ600」の授業は、原則、大学院生、研究生、特別聴講生、教員研修生、そして日本語日本文化研修生（以下、日研生）が受講することになった。短期留学生が学部の学生で20代前半が多いのに対し、日研生以外の補講コースの学生は、大学教育を終了しており、年齢層がやや高いという違いがある。

2012年度に行った調査では、読解の困難点として「語彙不足」が多くあげられた。その結果を踏まえ、2013年度からは教材毎に読み物で使われている語彙・文型の使用例を紹介する予習シートを作成し、宿題として課した。クラス活動としては2012年同様、小グループでの音読練習、読み物の内容理解の話し合いを続けてきた。また、同一トピックに関して、いくつかの異なる意見を分担して読み、その内容をまとめ、他の受講生に伝えるという口頭表現活動（ジグソー読み）も行った。

2012年度とは異なる対象受講生のニーズを知り、適切な読み教材を選択し、最大限の学習効果を得るため、引き続き2013年度秋学期と2014年度春学期にアンケート調査を行った。本稿では、受講生の読み教材に対する評価と傾向、授業運営上の留意点、工夫などを記述していきたい。

2. 授業概要

2013年度および2014年度の「読むJ641」授業は2クラスが並行して開講され、2名の教員が担当した。

2.1 教材

表1の教材を使用した。選択にあたっては、エッセイ、説明文、小説、新聞記事など、なるべく様々なジャンルの読み物を用意するよう心がけた。分量は75分授業2コマで完結するような長さのものを選択、あるいは読み物の一部を抜粋して用いた。年末の風物が描かれた小説などは、その時期に授業で取り上げるよう調整するなどの工夫をした。

2.2 授業の流れ

授業は予習型で、受講生は授業前に教材文章を読み、課題を行った。具体的には以下のような手順で進めた。

- 1) 予習シートの配付：予習シートには以下の内容が含まれる。a) 語彙・文型のリス

ト：読み教材で用いられている語彙の意味、そして使い方を示す例文を載せた。b) 語彙・文型の練習問題：語彙を使って文章を完成する穴埋め問題や、学習文型を使って文章を完成する問題を設定した。c) 読み教材。d) 文章についての内容理解質問。

また、教材を読むのにかかった所要時間、受講生が読んでいて遭遇した困難点や疑問点などを書く欄も設けた。

2) 予習シートの提出とチェック：受講生は、予習シートの語彙・文型問題、文章読解、内容理解質問への解答を行い、次の授業日の前々日までに提出する。教師はシートの解答を確認し、完成度によって点数をつけ、コメント等を加え、授業時に返却した。

表1 読むJ640使用教材

2013年度秋学期

	教材	出典	文字数	ジャンル
1	たのしい制約	佐藤雅彦『毎月新聞』(2003年)	1,492	エッセイ
2	島の規則	本川達雄『ゾウの時間 ネズミの時間』(1992年)	1,166	説明文(生物学)
3	ヒッチハイカー	ドナルド・J. ソボル(著)・武藤崇恵(訳)『2分間ミステリー』(2003年)	698	小説(推理)
4	死んだフランス人事件	同上	725	小説(推理)
5	ゲッキョク株式会社	アーサー・ビナード『日々の非常口』(2009年)	816	エッセイ
6	なにもないねこ	北村薫(編)『謎のギャラリー—愛の部屋—』より別役実(著)(2002年)	1,931	小説
7	一杯のかけそば	栗良平『一杯のかけそば』(1992年)	5,772	小説

2014年度春学期

1	おはようございます	小谷野敦(著)朝日新聞2004年1月19日夕刊 コラム	603	エッセイ
2	「ほめると育つ」は本当か	朝日新聞2009年6月6日 記事	1,157	新聞記事
3	島の規則	本川達雄『ゾウの時間 ネズミの時間』(1992年)	1,166	説明文(生物学)
4	「こんにちは」の用法	水谷修『話し言葉と日本人 日本語の生態』(1987年)	2,453	説明文(言語)
5	ボタン	内海隆一郎『朝の音』(2001年)	1,342	小説
6	禍転じて福となす	ピーター・フランクル『美しくて面白い日本語』(2002年)	764	エッセイ
7	コンビニ24時間営業 (3本のジグソー読み)	朝日新聞2008年5月28日、8月18日、2014年3月7日	計1,320	新聞投書・記事
8	俳句・川柳・標語って?	第一生命保険会社サラリーマン川柳からの引用など	—	俳句・川柳・標語

3) 授業活動：予習シートを基に、3～4人の小グループで、予習シートの答え合わせ、意見交換をし、漢字の読み方の確認、言葉の意味確認も兼ね、音読練習をした。その後、クラス全体で言葉の使い方、注意点、文型の説明と用法の確認を行い、内容理解、意見・感想の交換を行うという手順で授業を展開した。予習シートに書かれた受講生からの質問で、クラス全体で共有したほうがよいものは皆で考えるようにした。

なお、2012年度は、読み教材毎に復習として、語彙・表現の意味や使い方、漢字の読み方などの小テストを実施したが、2013年度からは行わなかった。

3. アンケート調査

3.1 アンケート内容

学期終了時に2種類のアンケート調査を行った。形式は選択肢から答える質問と自由記述を併用した。2つのアンケート調査を以下(1)「教材・授業活動評価アンケート」、(2)「読み方調査アンケート」と呼ぶ(資料1、2)。それぞれの目的と概要は次の通りである。

(1)「教材・授業活動評価アンケート」

使用読解教材に関して、1)おもしろさ、2)難しさ、3)役に立ったかどうか、という項目を3段階で評価してもらい、その理由を自由記述で書くスペースを設けた。さらに、授業で行ったグループ活動、各教材の予習シートについて、役に立ったかどうか、そして受講生自身の授業・学習への取り組みも3段階で評価してもらい、教材評価同様自由記述のスペースを設けた。

(2)「読み方調査アンケート」

受講生の読むことに対する意識を知るためのもので、何を読解で困難な要因と考えているのか、読んでいるうちに分からなくなった時にはどのような対処法をとるのか、読解力を身につけるため実際どのような努力をしているのか、授業でどのような読み物を読みたか、などの質問を設定した。

3.3 アンケート対象者と回答者数

2013年度秋は19名、2014年度春は16名がアンケート対象者であった。回答者の出身は以下の通りである。また、表2に内訳を示す。

2013年度秋学期：中国(6)、ポーランド(3)、インドネシア(1)、ウクライナ(1)、カザフスタン(1)、韓国(1)、カンボジア(1)、キルギス(1)、シンガポール(1)、ベトナム(1)、マレーシア(1)、ロシア(1)。

2014年度春学期：中国(7)、ウクライナ(2)、インドネシア(1)、韓国(1)、キューバ(1)、モロッコ(1)。

表2 アンケート対象者数と回答者数 (数字は人数)

	対象者	回答者			
		教材授業評価		読み方調査	
			うち中国・韓国		うち中国・韓国
2012年度	教材：67 読み方：91	58	35 (60.3%)	72	45 (62.5%)
2013年度秋学期	19	19	7 (36.8%)	17	6 (35.3%)
2014年度春学期	16	12	7 (58.3%)	11	6 (54.5%)

4. 調査結果

本稿では、(2)「読み方調査アンケート」から「受講生が授業で読みたい文章」「読解の困難点」、(1)「教材・授業活動評価アンケート」から「教材の評価及び感想」「授業活動」「言葉の学習」の項目に絞り、報告する。

4.1 授業で読みたい文章

2013年度秋学期、2014年度春学期を合わせ28名から回答を得た。一つだけ選ぶよう指示したが、複数回答が多かった。すべての回答を集計した。結果は表3の通りである。

表3 授業で読みたい文章 (複数回答者あり)

	2012-2, 2012-3 (72名)		2013-秋, 2014-春 (28名)	
	順位	回答数	順位	回答数
理解するために深く考えるもの	6	4	1	10
新しい知識が習得でき、話題にできるもの	4	10	2	9
日本の文化や日本について学べるもの	3	16	3	6
新しい単語・表現が学べるもの	1	20	4	5
内容がおもしろくて、スムーズに理解できるもの	2	18	5	4
新しい文型がたくさん学べて、習った文型が多く出てくるもの	5	9	6	1

2012年度の受講生は「新しい単語・表現が学べる」が最多で、言語知識の習得を求める傾向が強く、「理解するために深く考えるもの」を選んだのは4名(5.6%)と少なかった。それに対し、2013年/2014年では「理解するために深く考えるもの」を選んだ受講生が10名で最も多く、次いで「新しい知識が習得でき、話題にできるもの」が9名だった。言語知識よりも、読み教材の内容から何か学べることを期待しているようである。この傾向は、対象受講生が変わったことによるのであろうか。読み教材評価の結果と合わせて後述する。

4. 2 読解の困難点

2012年度から若干項目を変更した。2つ選ぶよう指示したが、1つのみ、あるいは3つ以上を選択した受講生もいた。すべての回答を集計した(表4)。

表4 読解の困難点(複数回答、数字は回答数)

2012年度 (72名)			2013, 2014年度 (28名)		
語彙・文法知識	67	93.1%	単語がわからない	15	53.6%
			文法・構文がわからない	16	57.1%
社会・文化的背景知識	42	58.3%	社会・文化的背景知識がない	9	32.1%
内容について知らない、興味がない	21	29.2%	内容について知らない、興味がない	7	25.0%
/			文章が長過ぎる	4	14.3%
その他	5	6.9%	その他	2	7.1%
無回答			無回答	1	3.6%

いずれの学期も、半数以上の受講生が「語彙・文法知識」の不足を困難点としてあげている。また、約3分の1が「背景知識」の不足をあげている。しかし、「その他」を選んだ受講生の中には、以下のようなコメントが見られた。

“筆者の気持ちがわからない。主観的考えが文章の感情を誤った方向に導く。”

“よくあることは、単語、文法、それぞれがわかりますが、文の意味がわかりません。”

これは受講生の困難点であると同時に教師のかかえる課題でもある。漢字の読み方、語彙・文法の知識を強化する工夫は即対応できる。また、コメントに書かれているような文章全体を理解し、味わうことが苦手な学習者を前にした時、受講生同士での話し合いが功を奏することは多々ある。しかし、それにだけ頼っているわけにはいかない。内容理解のための質問項目を吟味し、深い理解を促すための背景知識、関連情報の与え方に工夫が求められるだろう。

4. 3 読解力不足の理由

上述の「読解の困難点」と重複する項目もあるが、Lin (2002) を参考に、読む力が足りない理由について、言語以外の要因を選択肢として尋ねた。この質問は2012年にはしていない。2つ選ぶよう指示したが、受講生の中には1つのみ、あるいは3つ以上選択した者もいる。すべての回答を集計した(表5)。

一番多い回答が「時間がない」というものであった。大学院生、研究生は日頃、専門の勉強に忙しく、日本語学習になかなか時間を割けないと感じているのではないだろうか。

「日本語で読むのは難しい、おもしろくない」という回答に関しては、日本語の読解力不足の結果なのか、母語、あるいは他の得意な言語で読むときと比べたものなのか、明ら

表5 読む力が足りない理由 (28名が複数回答、数字は回答数)

時間がない	13 (46.4%)
日本語で読むのは難しい、おもしろくない	11 (39.3%)
社会・文化背景知識がない	10 (35.7%)
日本語で読む時に不安や緊張がある	6 (21.4%)
その他	5 (17.9%)
無回答	1 (3.6%)

かではない。しかし、「その他」のコメントには、“単語や文法、表現の知識が足りない”など語彙の少なさに関する記述3件、“新聞などを読んでいる時、知らない漢字や漢字語彙がたくさん出てきたり、辞書でひくことが多いため、あきらめたくなってしまう”など漢字力不足をあげるコメントが3件あり、受講生はやはり言語そのものの困難を大きく感じているようだ。

「日本語で読む時に不安や緊張がある」と回答した受講生も2割ほどいる。Zhao, Guo, and Dynia (2013) では、英語を母語とする中国語学習者は、文字へのなじみのなさ、トピックへのなじみのなさから読解不安を抱いていることが示されている。今回対象とした受講生についてはどうなのか、「不安」「緊張」の具体的内容を探る必要がある。

4.4 教材評価「おもしろさ」「難しさ」(図1, 2、表6)

2014年度春学期は、2013年度秋学期の教材のうち、【島の規則】以外を入れ替えた。理由は、次レベルに進級できず、両学期を継続して学習する受講生が一名いたためである。読解力をつけるためには、同じ文章を繰り返し学習するよりも、多くの文章に触れることが必要だと考えた。例外的に【島の規則】のみ残したのは、この教材は学習効果が高く、かつ受講生の興味を引く内容なので、除外すると損失が大きいと考えたためである。継続受講生にとっても繰り返す意義のある読み物と判断した。

以下、いくつかの教材を取りあげ、教材文章の特徴と受講生の受けとめ方について見ていく。

(1) 【島の規則】

2013年秋学期、2014年春学期ともに、おもしろさの評価の高い【島の規則】に関して考察してみよう。この文章は、離島においては大きい動物が小さく、小さい動物が大きくなるという古生物学の規則についての説明文である。多くの受講生がおもしろさの理由として、この現象を“知らなかった”とコメントしている。4.1「授業で読みたい文章」の項目に照らし合わせてみると、「新しい知識が習得でき、話題にできるもの」という項目が最も該当するようだ。また、文章では日本が島国であることにも言及しているため、「日

本の文化や日本について学べる」という点においても、受講生の興味を満足させるものだったようだ。

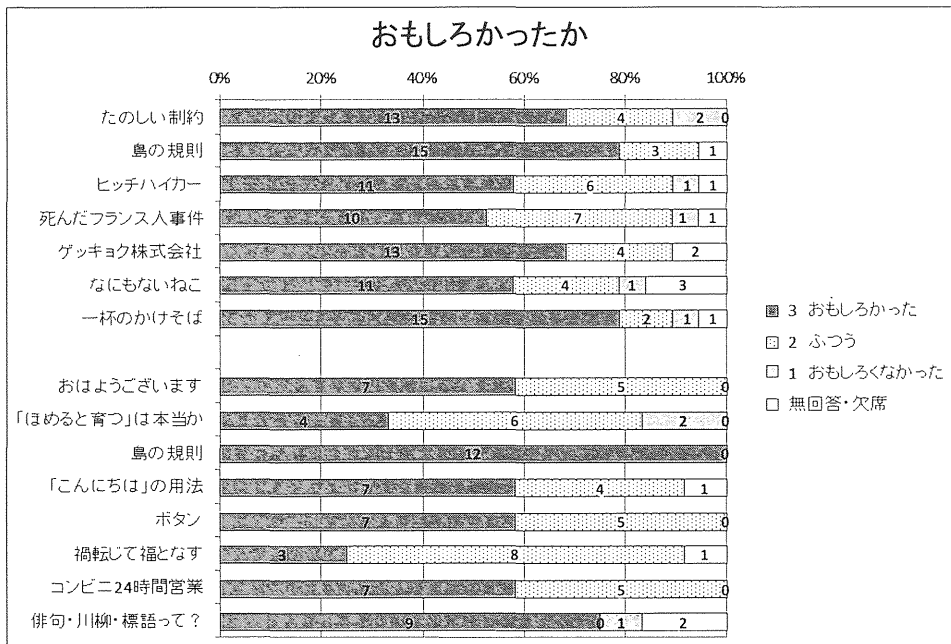


図 1 教材の「おもしろさ」の回答結果 (数字は人数)

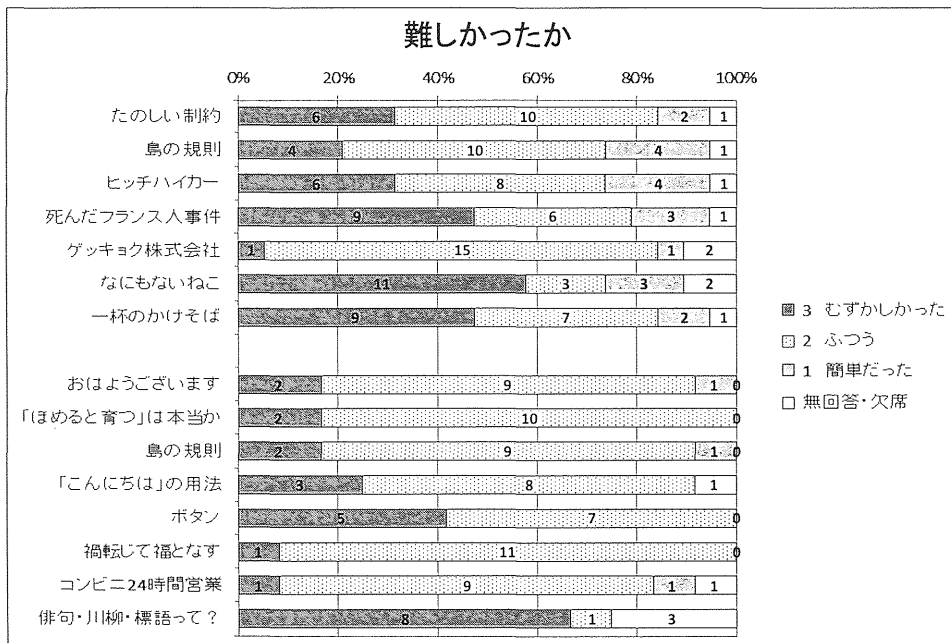


図 2 教材の「難しさ」の回答結果 (数字は人数)

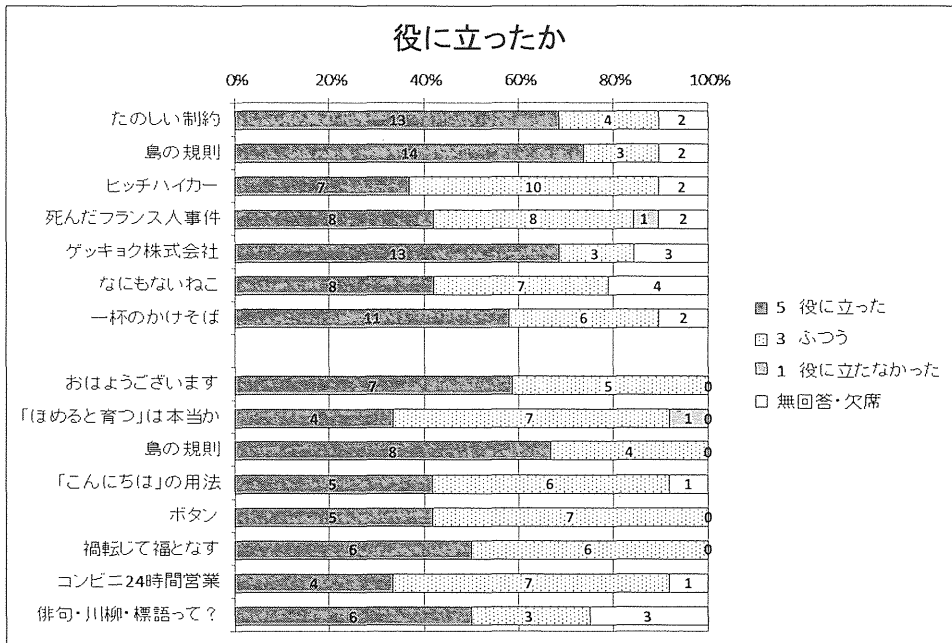


図3 教材が「役に立ったか」の回答結果（数字は人数）

(2) 【禍転じて福となす】【「ほめると育つ」は本当か】

一方、「おもしろい」の評価の低い【禍転じて福となす】【「ほめると育つ」は本当か】に寄せられたコメントを見てみると、どちらの教材も賛否がはっきり分かれている。2つのクラス別に見ると、評価平均は2クラスでほぼ同じだが、コメント内容では異なる反応が見られた。Aクラスはやや批判的なコメントを寄せ、Bクラスは内容に関して肯定的な反応を示している。

コメントから推測すると、「ふつう」という回答が多い理由は、予測可能な展開であったり、既に多くの人が共有している価値観の紹介であったり、意外性が感じられない内容で知的興味を刺激しない、と受講生が受け止めるためではないだろうか。

(3) 【ヒッチハイカー】【死んだフランス人事件】

この2つの教材は、同一の筆者による短いミステリー小説である。内容を理解した上で、事件の真相を推理することが求められる。この課題に対して、賛否のコメントが寄せられた。謎解きのおもしろさを肯定的に捉えるコメントが8件、逆に謎解きに対して否定的なコメントが4件見られた。

表6 教材についてのコメント (1)

(一部抜粋、文章は受講生の記述のまま。) [] 内の項目に記載されたコメント

<p>(1) 【島の規則】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストを読む前に島のねずみなどは大陸のねずみより大きいとわかりませんでした [おもしろい]。 ・日本の虫は自分の国より大きいということに気がつけたが、「島の規則」を読んでから理由がわかるようになった。 ・そんな珍しいことについて初めて聞いて、信じられないぐらい話だと思った。この文章を読んで、世界の珍しいことについて自分の知識を増やすことができてよかった。 ・日本人も島にすんでいる。日本も島国なのでそれと一緒によむとなかなか面白かった [おもしろい]。
<p>(2)-1 【禍転じて福となす】</p> <p>Aクラス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある文を理解しにくい。 ・あくまでのただのある人のでんきだからふつうです。もっと人気の人なら、おもしろいはずです。たくやきむらとかあべひろしとか。 ・内容が普通。内容は簡単でわかりやすいと思う。 ・すごいおじさん、数学はむずかしいのに。 ・ピーター [注：筆者] がきらい。 <p>Bクラス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災難があっても、楽観的な態度をとれば、悪いことを自分の有利になんとかなるように工夫できるだろうと考えるようになった。 ・ピーター・フランクルという人のことを初めて聞きました。人生が未知性があるこそ面白くなりますね。
<p>(2)-2 【「ほめると育つ」は本当か】</p> <p>Aクラス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容は面白くない。 ・あくまでもふつうの読み物ですね。 ・文章内容の理解 (が難しかった) 専門的な文章だったので、理解しにくいかもしれないだが、前は接触しなかった内容だから、文章を理解するため日本語能力だけがもとめると思う。(ママ) ・思春期のこどもをほめても役に立たないかもしれない (ということがわかって面白い) こどもを育てるのはけっこう大変だと思う。 ・役に立ったがそのアイデアが古すぎ。 <p>Bクラス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもに関する実験 [おもしろい]。今後にこどもを育つ方法 [役に立つ] ・「ほめて育つ」という方法は大事だと思います。 ・当たり前なことだから、一体なぜ日本には親に価値を認められないで育ってきた子供はそんなに多くいるのかと残念に思った。 ・内容 [おもしろい]。単語、文法 [ふつう]。子育ての勉強になります [役に立つ]。とても面白かったと思います。 ・子育てまたは教育は、結局的に誰も何もはっきり分かりません [おもしろくない]。

(3) 【ヒッチハイカー】【死んだフランス人事件】

肯定的意見

- ・文を理解するだけでなく、推測もするからおもしろいです。
- ・一番難しいのはなぞを解けることだった。そして、そのような読み物は論理的な考え方が現れるのに役に立つと思う。

否定的意見

- ・全然理解できなかった [おもしろくない]。言葉も論理的なことも難しかった [難しい]。何が論理的って、私には理論の論理だけでわかりません [役に立たない]。
- ・答えを見つけるのは苦手です。(2名)
- ・そんなミステリはきょうみないから [役に立たない]。
- ・推理小説とかあまり読まない。文章が短い、答えが見つかなかった (2名)。

言語に関するコメント

- ・知らなかったことば [難しい] ・外来語 [難しい]
- ・にちじょうせいかつで使われるはなしことばがたくさんでた [役に立つ]。
- ・日本語の主語と英語の主語に気づいた。
- ・たくさん表現かことばが出て来た [役に立つ]。もっとこういうテキストを読みたい。
- ・能力試験などのれんしゅうになると思う [役に立つ]。

(4) 【なにもないねこ】

全文ひらがなのみで書かれていることについて

- ・ひらがなで書いた／漢字がないから読みにくい (5名)。
- ・なにもないねこはかわいそう。なぜ漢字を使わずに書かれたか分からなかった。
- ・ひらがなだけで書かれた文は不思議に見えた。
- ・漢字が使わないこと [おもしろい]。たて書きが不便だったけど [難しい]
- ・漢字かないからよみやすかった (2名)。
- ・文章のこうせいがおもしろかった。ひらがなだけで書かれた文章だから [おもしろい]。
- ・ひらがなでも、とてもチャレンジがある文章です。
- ・全部ひらがなで書いているから、印象に残る。難しいではないが、読むのは大変だった。

内容について肯定的コメント

- ・いろいろ考えさせるところ [役に立つ]。一言で言えない、面白かった。
- ・非常に悲しかった読み物だった。私がまだそんなに悲しく感動的なテキストを読んだことがなかった。しかし、価値があるテキストだと思う。私の意見では、授業で読んだのテキストの中で、一番好きなテキストだと思う。
- ・ストーリーはとてもおもしろかった。このしょうせつがいちばんよかった [おもしろい]。
- ・文章の流れはおもしろかった。書き方も、人物像の描写も、役に立てる。
- ・とても意味深い文章／哲学的だと思うから、いろいろ考えさせました (4名)。

内容について否定的コメント

- ・あまり興味なかった。このテキスト読んで本当に気持ち悪かったです。
- ・このぶんしょうはひっしやはなにをいいたいのがよく分かりません。私の国でこんな物語は少学生に流行っています。
- ・テキストが面白かったが、もっともむずかしい文章をよんだ方がいいと思う。

また、他の教材に対するコメントの多くは内容に関するものだが、この2つの作品に関しては、「役に立つ」理由として、言語的な指摘が多く見られた。能力試験を念頭においた評価があるのもこの教材のみであった。

(4) 【なにもないねこ】

この読み物はファンタジー的な短編小説で、すべてひらがなで書かれている。冒頭部分は「みみがひとつしかないねこがいました。そのかわりそのねこには、めがみつつありましたから」というもので、主人公の「なにもないねこ」はなにもないので周りの人に見えない、という設定である。

この教材は「難しさ」の評価が高く、受講生からは“読むことと理解すること、両方ともむずかしい”“読めない、難しすぎた”というコメントが寄せられた。また、困難の理由として“ひらがなのみなので、読みにくい、難しい、なぜひらがなのか理解できない”等、表記面を挙げる受講生が漢字圏・非漢字圏を問わず多くいた。ただし逆に、“ひらがなのので簡単、おもしろい”という意見も少数あった。

また、「難しさ」の評価には、この小説の意外性が大きく影響しているのではないだろうか。現実にはあり得ない「ねこ」の話は受講生にとっては想定外で、この物語の中に何を見いだせばいいのか、という戸惑いが広がったようだ。小説は全般に好き嫌いの個人差が見られるが、非現実、ファンタジー的要素の含まれたものは特にその傾向が強いのではないか。最後まで読み進み、そこから普遍的な意味を見いだした受講生は自分なりの理解を得て、達成感を持ったかもしれない。内容が「難しい」と感じたからこそ、興味深いという評価にもなったかもしれない。

「おもしろさ」と「難しさ」の関連を見ると、教材全般に、「難しい」から「おもしろくない」、あるいは「かんたん」だから「おもしろくない」という単純な関連にはなっていない。【一杯のかけそば】【俳句・川柳・標語って】のように「難しい」ながらも「おもしろい」と評価される教材もある。【ゲッキョク株式会社】は、難しくないがおもしろい、という評価であるし、【島の規則】もその傾向がある。難しいものであっても、易しいものであっても、内容的に得るものがあれば、おもしろいという評価につながるのだろう。

実際に読む際、何を「難しい」と感じているのか、という問題もある。4.2の「読解の困難点」で述べたように、読解全般の困難要因としては、半数以上の受講生が語彙・文法知識の不足を挙げている。では、受講生にとって難度の高い（低頻度の）語彙が多くふくまれる文章を「難しい」と感じているのだろうか。表7に、各教材に含まれる高難度の語彙の割合（Webシステムによる語彙の解析結果）と、「難しい」と感じた受講生の人数をまとめた。ここからわかるように、語彙の難度と「難しい」という受講生の数には特別な関連が見られない。2013年度秋学期は【ヒッチハイカー】、2014年度春学期は【「ほめると

「育つ」は本当か】が最も語彙難度の高い文章であるが、どちらも「難しい」と回答した人数は多くない。

表7 教材の語彙レベルと「難しい」を選択した人数(％は異なり語の割合)

	旧日能試1級以上の語彙*1		jReadability 上級以上の語彙*2		「難しい」人数	
	順位		順位		順位	
2013年度秋学期						
たのしい制約	6	16.8%	4	5.4%	4	6
島の規則	5	19.2%	3	5.6%	5	4
ヒッチハイカー	1	25.2%	1	12.4%	4	6
死んだフランス人事件	1	25.2%	6	4.5%	2	9
ゲッキョク株式会社	3	23.8%	2	8.1%	6	1
なにもないねこ	7	12.3%	7	4.1%	1	11
一杯のかけそば	4	20.9%	5	5.1%	2	9
2014年度春学期						
おはようございます	7	8.2%	6	3.1%	4	2
「ほめると育つ」は本当か	1	25.7%	1	9.6%	4	2
島の規則	4	19.2%	3	5.6%	4	2
「こんにちは」の用法	6	12.5%	7	2.8%	3	3
ボタン	3	20.1%	2	6.6%	2	5
禍転じて福となす	5	17.4%	4	5.1%	5	1
コンビニ24時間営業	2	22.4%	5	4.2%	6	1
俳句・川柳・標語って？		—	—		1	8

*1 旧日能試1級以上：旧日本語能力試験の出題基準で1級・級外の語彙の割合。判定は「日本語読解学習支援システム、リーディング・チュウ太 (<http://language.tiu.ac.jp/>)」による。

*2 jReadability：日本語文章難易度判別システム alpha版 (<http://jreadability.net/>) による。「上級前半」「上級後半」の語彙の割合を算出した。このシステムの語彙レベルは「汎用的日本語学習辞書開発データベース構築とその基盤形成のための研究」によりプロジェクト内で独自に作成されたものである(参考：Sunakawa, Lee, & Takahara, 2012)。

各教材のコメントからもわかるように、実際に「難しい」と捉えられる読み物は、文章のジャンル(説明文、小説、エッセイ等)や、内容トピックになじみが薄い、社会文化的な背景知識が十分ではない、表面的な文章理解ではなく、さらに思考を深めて、筆者の意図や登場人物の心情といったものを読み込む必要がある、といった要因を含むものと考えられる。

読解力を発達させるためには、学習者自身が、何が難しいか、なぜ読めないのか、克服するために何が必要か、を考える必要があるだろう。その際には、表面的に指摘しやすい語彙

や文法の面だけでなく、内容の深さ、背景知識の重要性にも目を向けさせたい。受講生同士で読み物についての話し合いを行うことは、この点でも有益だろうと思われる。

4.5 教材評価「役に立つ」「新しい知識の習得」(図3、表8)

読み物【島の規則】が受講生の期待する「新しい知識が習得でき、話題にできる」という条件を満たすという点で「おもしろさ」の評価が高いのであろうと述べた。【たのしい制約】【おはようございます】【こんにちは】【俳句・川柳・標語って】もおそらくこの条件を満たすものであったと考える。【一杯のかけそば】に関しては、この物語の背景になる「暮れ」の12月に授業で読むことにした。コメントでは、“言葉や表現が難しかったが感動した”というものが多かったが、“日本の年末年始の風習を学べてよかった”という意見もあった。

小説「ボタン」では、“日本でむじんはんばいがあるということはおもしろい。インドネシアではむじんはんばいはぜったいむりだ。ものがぬすまれたはずです。インドネシアにはびんぼう人がいっぱいいるから、はんざいがおおい。”というコメントがあり、普段私たちが見慣れている日常を描く小説の中に受講生がある発見をしていたことが伺えた。

新聞の投書記事「コンビニ24時間営業」は、コンビニの24時間営業をめぐり、相反する意見の投書2本と、深夜アルバイトの実態を描いた新聞記事1本の計3本を使用して、ジグソー読みを試みた。受講生は3本のいずれか一つを読み、その後、異なる記事を読んだ3名でグループになり、それぞれが読んだ記事の内容を伝え合った。読み教材としての評価には“同じテーマは違う立場に立てば、違う結論が出るのはおもしろい。”という類いのコメントが3件見られた。この活動に対する受講生の反応は肯定的で、“読んだことを自分なりにまとめて話すという活動が有益だった”という記述があった。

表8 教材についてのコメント(2)

(一部抜粋、文章は受講生の記述のまま。)[]内の項目に記載されたコメント

(5) 【一杯のかけそば】
<ul style="list-style-type: none"> ・日本のお正月のことを学んだから [役に立つ] ・お正月の時期に読んで、有意義だと思いました。 ・としこしそばのしゅうかんについてしるようになった。または、正月に関する言葉を覚えた [役に立つ]。
(6) 【コンビニ24時間営業】(ジグソー読み)
<ul style="list-style-type: none"> ・同じテーマは違う立場に立てば、違う結論が出るのはおもしろい (3名)。 ・読み物をまとめて他のメンバーに説明していくことは一番いい。 ・文章を理解した上で、他の人に文章の内容を伝えるのはおもしろかった。役にもたつと思います。

受講生の「役に立つ」という評価の基準は、何であろうか。

【ヒッチハイカー】のコメントに見られるように言語的知識を得たという点から役に立ったのか、【島の規則】のように内容として「新しい知識の習得」ができたからか、【コンビニ24時間営業】のように読んだものをまとめて伝える、という活動が役に立ったのか、今回の調査では明らかではない部分がある。今後、調査に改良を加えていきたい。

5. 授業活動に対する評価 (図4)

(1) 授業の前に教材を読んできたか

ほとんどの受講生 (2013年13/19名 2014年12/12名) がいつも授業前に読んできたと回答した。“読まなければ宿題を完成できないだろう。(だからいつも読んできた)”とコメントが示すように予習型の授業展開は最後まで維持できた。

(2) グループ活動

予習シートを基にして3～4名のグループで、答え合わせ、話し合い、さらに漢字の読み方などを確認するため音読練習を行った。グループ活動に対する評価は、概ね肯定的であった。「一人で読んだ方がいい」と回答した理由として、“あくまでもグループのなかにもまだべんきょう中の人ですから、ただししかどうかわからない。じかんがむだにする。せんせいと読むの方がいい。まちがっているポイントはすぐわかるから。”と教師が説明した方が効率的という意見があった。ほとんどの受講生は“自分と違った意見を聞くと、読み物はもっと理解できる。”という意見を寄せた。また発音、漢字の読み方という点から“他人の間違いみて自分もそうしないよう気づくことです。発音、アクセントなどです。”という意見もあった。

(3) 言葉の学習

読み教材に使われている語彙、表現、文型の意味・用例、それらを使った穴埋め問題、文完成問題などの部分を充実させ、予習シートに盛り込んだ。概ね好評を得たと言える。

受講生からは“まず授業の前に「読む前に」の「言葉の学習」を予習し、授業の時、もう一回その言葉を学び、記憶にとって、とても役に立った。”“習った言葉が文章にでてくるので、読みながらじしょをしらべることがへられましたから。”“もし「言葉の学習」がなくて、そのまま直接的に文章を読むのは、わからない言葉がいっぱいなので、理解しにくい。”などのコメントが多く寄せられた。先に述べたように、語彙が読解の困難点であると捉えている受講生が多い。意味・用例の提示という補助によって困難が克服しやすくなり、かつ、練習問題によって学習効果も感じる事ができたのだろう。

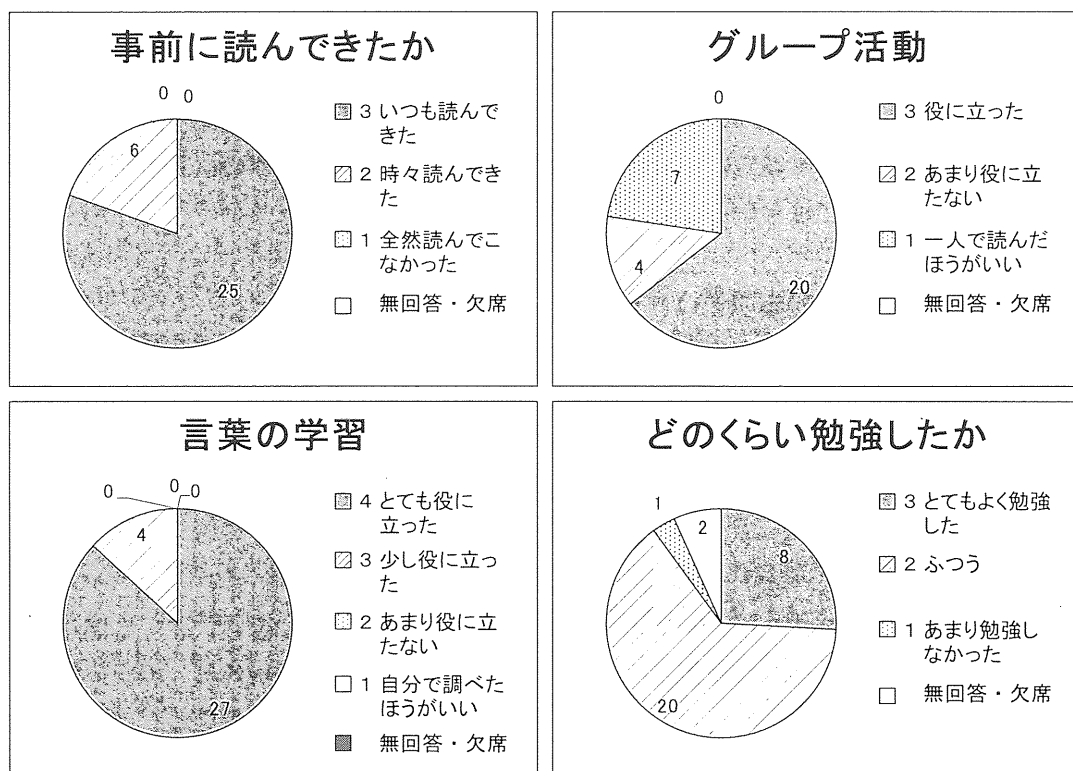


図4 授業活動についての回答結果（全回答者31名、数字は人数）

(4) どのくらい勉強したか

「ふつう」と答えた受講生がほとんどであった。そのコメントには「JLPT N2もごうかしたからこのくらいはふつうです」「学んだ言葉はすべて覚えなかった（からふつう）」「授業の外で一週間で1～1.5時間しか勉強しないから、一生懸命とは言えません。」とある。予習シートは上述のようにほとんどの受講生が提出している。受講生の意味する「ふつう」は要求水準がやや高いと言えるかもしれない。あまり勉強しなかったと答えた受講生は「入学試験の準備のためである」と理由をあげていた。

6. 調査結果のまとめ

調査の結果、以下のことが見えてきた。

・2012年度（短期留学生と大学院生、研究生が対象、回答数72名）の受講生が授業で読みたいと挙げた上位3つは、「語彙・表現がたくさん学べるもの」「内容がおもしろく、理解しやすいもの」「日本について学べる」であった。受講生は、語彙、表現の拡充を期待していたことがわかった。

・それに対して、2013秋学期、2014年春学期（大学院生、研究生、日研生が対象、回答数

28名) 受講生は、「理解するために深く考える」「新しい知識が習得でき、話題にできる」「日本の文化や日本について学べる」を授業で読みたいものとして挙げていた。読み教材の評価の基準として、言語的知識の習得よりは、読み物の内容の方が優位だった。

- ・読み教材評価に関して「おもしろさ」と「難しさ」に特別な関連はないようである。

- ・「おもしろさ」の評価が低い読み教材は、予測可能で意外性が少ないもの、なおかつ、言語的にも難度の低いものという傾向がある。

- ・授業でのグループ活動を肯定的に捉え、クラスメートとの意見交換は理解を深めるのに役に立つと考える受講生が多かった。内容理解に役に立つだけでなく、漢字の読み方、発音、イントネーションの修正にも役に立つという回答もあった。

- ・読んだものの内容をまとめ、他の受講生に伝えるというジグソー読みの活動は役に立つという評価を得た。

- ・読解の困難点としては、2012年度の調査結果同様、「語彙・文法」を挙げる回答が多い。予習シートの語彙、文型練習「言葉の学習」は役に立つという評価を得た。

- ・受講生は、忙しい研究生生活を送っているが、時間の許す限り日本語学習に力を注ぎたいと考えている様子が見えた。

主として研究生、大学院生を対象とした補講コースの授業では、単位が出ない。それでも、受講生は、忙しい研究生生活の合間を縫い、授業に参加しようとしている。短期留学生にくらべると、補講コースの受講生は、言語的に難易度が高く、内容的にも深みのあるもの、じっくり考えることを要する読み物に読み応えを感じているようである。

7. 今後の課題

以上の結果を踏まえ、今後も読み物を通して受講生に新たな知識を与え、深く考えさせる、議論させる、という活動を授業に取り入れたいと考えている。そのためには受講生の興味を刺激するもの、知的好奇心を満足させるような読み物を探し続けていきたい。しかし、原文のまま読み物を教材として使用すると、未習の語彙・表現・文型などが障壁となる。授業においては、この壁を少しでも低くして、受講生が読むことを楽しむのを手助けすることが教師に求められていると考える。その具体的な方法が、予習シートの充実を図ることであろう。

語彙に関しては、語彙の意味を正しく知り、文法的に正しく使えることはもちろんだが、品詞は何か、話し言葉か書き言葉か、和語なのか漢語なのか、派生語は何か、丁寧さの度合い、使用域(使われる状況、年齢、性別など)、使用頻度、などの点にも学習者の目を向けさせる必要がある。比較的使用頻度の高い語彙に関しては、それを定着させるため小テストが効果的であろう。2012年度の調査では小テストに対して、覚えるのに役に立つ、小テストのために復習することになってよい、という肯定的意見が見られた。また、語彙

の意味が分かり、読み教材が理解できたら、その語彙を適切に使用することが必要だ。書く課題と同時に話す課題を与え、自然に流暢に使えるようにすることがさらに定着を促すだろう。そのためには、グループでの話し合いを始め、ジグソー読みなどの活動で、学習した語彙を使わせる仕組みを授業に積極的に取り入れたいと考える。どのくらい新たな語彙を学んだのかというリストを学習者に作らせるのも動機付けとして効果的であろう。最終的には、受講生が、上述の一つの言葉に関わる使用域を始め様々な側面を意識するようになり、自ら語彙力強化に努めることを促していきたい。自律的学習者になることを手助けすることが目的である。

さらに文体の違いを意識させる必要もあろう。一つの読み教材の長さという制約から、どちらかという説明文、エッセイに偏りがちであるが、文体の違いがはつきり現れる読み物の開拓も必要であろう。

そして、語彙、文法、表現、の意味はわかるが、文全体が理解できない、という教師にとっては悩ましい受講生の問題点をさぐり、理解の助けになるような工夫を具体的に模索していきたい。

教材評価のアンケートは、各学期の最後に行い、その学期に読んだ教材を思い出してもらい、受講生の評価、コメントを得たが、受講生の様々なコメントを読んだのは教師だけであった。アンケートで得られたような感想はクラス全体で共有できていなかった。次の学期からは、各読み教材毎に、授業時間に読んだものについての意見交換の場を設けたいと考える。

参考文献

- 高橋純子・鄭聖美 (2014) 「読むJ600 教材の最適化を目指して—アンケート調査結果の報告—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』29号：189-204
- Lin, Z. (2002). Discovering EFL learners' perception of prior knowledge and its roles in reading comprehension. *Journal of Research in Reading*, 25:172-190
- Sunakawa, Y., Lee, J., & Takahara, M. (2012). The construction of a database to support the compilation of Japanese learners' dictionaries. *Acta Linguistica Asiatica*, 2:97-115
- Zhao, A., Guo, Y., & Dynia, J. (2013). Foreign language reading anxiety: Chinese as a foreign language in the United States. *The Modern Language Journal*, 97:764-778

資料1 教材・授業活動評価アンケート (空行、ルビを削除したもの)

名前 _____
(書きたくない人は書かなくてもいいです)

1. 読み物はどうでしたか。

1) 「おはようございます」 (小谷野敦)

おもしろかった	ふつう	おもしろくなかった	(どこが?)
むずかしかった	ふつう	かんたんだった	(何が?)
役に立った	ふつう	役に立たなかった	(どうして?)

感想:

2) 「「ほめると育つ」は本当か」 (朝日新聞)

おもしろかった	ふつう	おもしろくなかった	(どこが?)
むずかしかった	ふつう	かんたんだった	(何が?)
役に立った	ふつう	役に立たなかった	(どうして?)

感想:

3) 「島の規則」 (本川達雄)

おもしろかった	ふつう	おもしろくなかった	(どこが?)
むずかしかった	ふつう	かんたんだった	(何が?)
役に立った	ふつう	役に立たなかった	(どうして?)

感想:

4) 「「こんにちは」の用法」 (水谷修)

おもしろかった	ふつう	おもしろくなかった	(どこが?)
むずかしかった	ふつう	かんたんだった	(何が?)
役に立った	ふつう	役に立たなかった	(どうして?)

感想:

5) 「ボタン」 (内海隆一郎)

おもしろかった	ふつう	おもしろくなかった	(どこが?)
むずかしかった	ふつう	かんたんだった	(何が?)
役に立った	ふつう	役に立たなかった	(どうして?)

感想:

6) 「禍転じて福となす」 (ピーター・フランクル)

おもしろかった	ふつう	おもしろくなかった	(どこが?)
むずかしかった	ふつう	かんたんだった	(何が?)
役に立った	ふつう	役に立たなかった	(どうして?)

感想:

7) 「コンビニ24時間営業」 (新聞投書・記事)

おもしろかった	ふつう	おもしろくなかった	(どこが?)
むずかしかった	ふつう	かんたんだった	(何が?)
役に立った	ふつう	役に立たなかった	(どうして?)

感想:

8)「俳句・川柳・標語って？」

おもしろかった	ふつう	おもしろくなかった	(どこが?)
むずかしかった	ふつう	かんたんだった	(何が?)
役に立った	ふつう	役に立たなかった	(どうして?)

感想：

2. 授業の前に読み物を読んできましたか。選んでください。

☐ いつも読んできた。 ☐ 時々読んできた。 ☐ 全然読んでこなかった。

どうしてですか。

3. グループで読むのはどうでしたか。選んでください。

☐ 役に立った。 ☐ あまり役に立たなかった。 ☐ 一人で読んだほうがいい。

どうしてですか。

4. 「読む前に」の「言葉の学習」は役に立ちましたか。

☐ とても役に立った。 ☐ 少し役に立った。 ☐ あまり役に立たなかった。

☐ 自分で、辞書で調べたほうが勉強になる。

どうしてですか。

5. この授業でどのくらい一生懸命勉強しましたか。

☐ とてもよく勉強した。 ☐ ふつう。 ☐ あまり勉強しなかった。

どうしてですか。

6. 「この授業は……だったのでよかった」ということを書いてください。

7. 「この授業が……だったら、もっとよかったのに」ということを書いてください。

8. 他に何かあれば、自由に書いてください。

資料2 読み方調査アンケート (空行、ルビを削除したもの)

名前 _____

1. 日本語の文章を読むとき、どんな読み方がいいと思いますか。

(1)か(2)のどちらかを選んでください。そして、その理由を1つを選んでください。「その他」を選んだ時は、必ずその理由を書いて下さい。

☐ (1) 読み物を読むときは、必ず最初から1行ずつ単語の意味を確かめて読んでいくのがいいと思う。

(1)を選んだ理由:

☐ 安心できるから。 ☐ わかりやすいから。 ☐ いつもそうしているから。

☐ その他 (書いてください)

☐ (2) わからない単語や表現があっても、最後まで読んでみる。知らない言葉や表現の意味は、読みながら類推 (=to guess) してみる。何が書かれているのか、どんな情報があるのかを探し出すようにするのがいいと思う。

(2)を選んだ理由:

☐ 速くだいたいの内容が理解できるから。 ☐ 読むことが大変ではなくなるから。

☐ いつもそうしているから。 ☐ その他 (書いてください)

2. 読むのが難しいと思うとき、その理由は何ですか。いくつ選んでもいいです。

1番大きい理由に「1」、2番目に大きい理由には「2」と書いてください。

() 単語がわからない。

() 文法、構文がわからない。

() 内容についてよく知らない。あまり興味が感じられない。

() 社会・文化的な背景知識 (=background knowledge) を持っていない。

() 文章が長すぎる。

() その他 (書いてください)

3. 読んでいて何か理解できないとき、どうしますか。2つを選んでください。

☐ 次に行けばわかるかも知れないと思って、読み続ける。

☐ わからないところを何回も読み直す。

☐ わからないところよりも、前のところに戻ってもう一度読み直す。

☐ 知らない言葉を辞書で調べる。

☐ あきらめて、読むのをやめる。

4. 読む力が足りないと思うとき、その理由は何ですか。いくつ選んでもいいです。

1番大きい理由に「1」、2番目に大きい理由には「2」と書いてください。

() 日本語で読むことに、不安や緊張がある。

() 日本語で読むのは難しい、あるいは、おもしろくない。

() 時間がない。

() 社会・文化的な背景知識がない。

() その他 (それは何か書いてください。)

5. 「読む」力をつけるために何が必要でしょうか。そのためにはどんな練習をしたらいでしょうか。考えて書いてください。

6. 5番に書いたことで、実際にあなたがやっていることはどれですか。

7. 5番に書いたことで、今までやっていなかったが、これからやってみようと思うものはどれですか。

8. 下の中で授業で一番読みたい「日本語の文章」は何ですか。1つだけ選んで○をしてください。

() 新しい単語や表現がたくさん学べるもの。

() 新しい文型がたくさん学べて、習った文型が多く出てくるもの。

() 内容がおもしろく、スムーズに理解できるもの。

() 内容を理解するために、深く考えなければならないもの。

() 日本の文化や日本について何か学べるもの。

() 何か新しい知識が習得でき、話題にできそうなもの。